

OF 特集号

# 緑ネット通信

No.74

緑のネットワーク・まつど

代 表：藤田 隆  
 年会費：1000 円  
 口座番号：00170-9-696174  
 連絡先：高橋盛男 090-2935-9444

都市の緑を残すためには、緑を見守り育む人のネットワークが不可欠です。私たちの活動の目的は、みどり特に樹林の保護・保全を願う人やグループと連携しその輪を広げ、豊かな生態系を保つ森を次世代に伝えることです。



市内に残された貴重な森を存続させ、未来の子どもたちに引き継ぎたい。そんな思いで始まった「オープンフォレスト in 松戸」。市民のみなさんに松戸の森を知ってもらい、楽しみながらその素晴らしさを身近に感じていただく機会として、2012年より開催しています。森を守る意義や課題、森を良好な環境に保つ里やま活動などに触れていただくこともねらいとしています。

第9回は2020年5月開催予定でしたが、新型コロナ禍の影響で延期となり、さらに2021年5月の開催予定するも再度の延期。緊急事態宣言の解除を受け、10月16日～24日ようやく開催できました。



さあ！森の中へ



ヨガ教室のお仲間



関家の庭は樹齢100年以上の古木が多いです



住宅地に囲まれた森の管理の難しさを熱く語る



「樹木さがし迷路」やりかたの説明



蜘蛛の巣作ってま〜す



今回のオープンフォレストは新型コロナ禍が収束していないということで、広く広報することもなく、「森の文化祭」も実施しませんでした。感染防止ガイドラインを策定し、森でもマスクの着用、受付での検温、連絡先の記入、手指のアルコール消毒、遊具の利用は密にならないように家族単位でのご利用など対策をして行いました。

公開日のうち2日間は雨で中止となりましたが、最後の土曜・日曜日は天候にも恵まれ、特に紙敷地区では大勢の親子参加があり、期間中に森を訪れた参加者は延べ383人(うち子ども137人)、スタッフは延べ136人でした。雨のため公開できなかった森もありましたが、里やまボランティアの皆さん、行政、地権者さんのご協力のもと期間中感染者もなく事故もなく無事に終了する事ができました。心より御礼申し上げます。(山下)

## 笑顔と落ち葉にあふれ秋深まる あそびの森 in 囲いやま 2021

藤田 隆

11月21日(日)松戸市常盤平駅近くの囲いやまの森で「あそびの森 in 囲いやま 2021」が開かれた。昨年は、「子どもっと松戸」など子育て支援団体による実行委員会の主催だったが、今年は「ちば里山アワード」の受賞記念として、里山活動の実践編とし、松戸里やま応援団の主催で行われた。また、今年にはパパサークル1団体が加わり、10団体が参加した。(参加団体別掲)

一般参加者73名(24家族)協力スタッフ50名、松戸里やま関係30名の計153名が秋の日射いっぱい森を楽しんだ。

11時開場を前に森の外から子どもたちの声が響き、入



あそびの広場に子どもたちがいっぱい

り口受付で手指消毒、マスク着用、三密を回避し、ハンモック、ブランコ、スラックラインに飛びついていた。

森の中の数カ所のエリアに協力団体がブースを設営し、エコトンボ、輪ゴム鉄砲、輪投げ、竹鉄砲、どんぐりコマ・ネックレスづくり、ハーブ石鹸ワークショップと子どもたちが喜びそうなアクティビティがそろえられた。松戸里やま応援団は竹ぼっくりづくり、ノコギリ体験を用意し賑わっ



子ども寄席で落語を演じました

ていた。

ステージでは紙芝居、大型絵本、子ども寄席、オカリナとウクレレ演奏が 30 分おきに楽しめるプログラムが続いた。

また、ネイチャーゲームの会の「かさね色」「落ち葉の窓」や松戸里やま応援団の「森のビンゴ」で、森の探検を楽しむ家族も多く、今年が初登場のキッチンカーも好評だった。

協力団体名	コーナー内容
松戸里やま応援団	ハンモック・ジャンボブランコ・森のビンゴ・木こり体験 紙芝居「囲いやまのボコ」
囲いやま森の会	森のクラフトづくり
まつどネイチャーゲームの会	コーナーは「かさね色」「落ち葉の窓」、ステージは ゲームとオカリナ・ウクレレ演奏のコラボレーション
エコトンボの会/ 日本エコイ協会	エコトンボ工作・輪ゴム鉄砲・ロケットシューター・ フロックボイス・輪投げゲーム等
松戸子どもの文化連絡会	カードスタンドとどんぐりコマを作ろう！ ステージ：大型絵本・紙芝居を楽しもう！
絵本の会「たんぽぽ」	どんぐりのネックレス・マンボックリのツリーを作ろう！ ステージ：手遊び・大型絵本・紙芝居を楽しもう！
NPO 法人さんま	森の中でステンドグラス、授乳・おむつ替えコーナー
NPO 法人 MamaCan & つながるプロジェクト	ハーブ石鹸ワークショップ キッチンカー（コーヒー・コッペパンサンド）
NPO 法人子どもとまつど	インディアンブローチ ステージ：子ども落語
ババサークル ババLabo	竹鉄砲を作ったの当てゲームを楽しもう

## 和やかな雰囲気にも包まれた講座

### ボランティア入門講座 19 回目が修了

松戸里やま応援団・樹護の会（15 期） 石崎俊彦

昨年に引き続き新型コロナ禍の中での講座開催となった。昨年は多数の応募者がある中で、新型コロナ対策のために抽選による大幅な人数制限を実施せざるを得なかったが、今年の開催に当たっては、密にならないように大きな会場を確保して、従来どおりの 20 人の方に参加してもらうことにした。自治会などの協力もいただき、大きな会場の確保が可能となった。

また、ちば里山アワード大賞受賞記念講演会・シンポジウムを講座に組み込み受講者の方々に里やま活動をより深く理解していただく計画にした。しかしながら記念講演・シンポジウムは緊急事態宣言中となり中止、1 日目の講座が実施できず講座の組直しを余儀なくされ受講者の方にはご迷惑をかけることになった。

何としても講座を再編成して実施することで、講師や関係者の方々、また受講者の協力により本年度の開催にこぎつけた。

講座の実施日はすべて天候に恵まれ、昼食は野外で実施することができてピクニック気分も醸しだし、受講者の皆さんに和やかな雰囲気が出てきて、講座の取り組みにも大きく好影響を与えたのではと思われる。さらに、プログラムのひとつである「森の自主訪問」についてはオープンフォレストの期間と重なり、森を訪問するチャンスが増えたと喜びの声も聴いている。

受講者は 15 名となったが（応募は 18 名）男女比もほぼ同じで年齢層も幅広く、皆さんの活発な動きや発言もみられて、今後の活動も大きく期待されるのではと感じている。また、講座は組直しなどが発生したが、概して順調に推移、一定の成果が見られたのではと思っている。

最後に「里やま講座 2021」に協力いただいた皆様には、改めて感謝とお礼を申し上げます。



グループワーク「私とみどりの未来絵日記」



坂川親水広場でお弁当を広げて歓談



関家のお庭で関さんのお話を伺いました

新型コロナ『緊急事態宣言』の解除

子どもたちが森にやってきた

関さんの森 川上将夫

『関さんの森』には近隣の小学生や都内の保育園児が、以前より定期的に来ていましたが、昨年の夏～初秋は、感染拡大防止のためすべて中止となり、つらい時期が続きました。

ようやく10月より森の訪問が再開されましたので、その様子を紹介します。

◆ 小金小2年生 8名、”まちたんけん” 10月5日

熊野権現、100年桜、蔵、裏庭の大榎(カヤ)、木小屋をまず見学。その後「この森には何種類の生き物がいるか?」「この森を守っていくのに一番大変な事は何か?」など、いろいろ質問に関さんにし、関さんは熱を込めて、丁寧に答えていました。

「みんなが来てくれて、この森や庭が好きになってくれる事が一番嬉しい」とお話しした関さんの気持ちは、きっと子どもたちに伝わったことでしょう。



◆ 葛飾区砂原保育園 12名 10月21日、11月18日

10月は3ヵ月ぶりの訪問になりました。前回7月は緑いっ



ぱいでしたが、今回は実りの秋。栗を拾ったり、柿をとってもらったり。お庭のキツリフネは実が熟し、触るとタネが弾けて飛びます。(写真左)

11月はお弁当を食べたあと「カラスウリ」の絵本を読んでもらいました。園児たちは、静かに集中して聞いていました。(写真右)



～しぜんのコラム 50～

アケビコノハの幼虫と寄生蜂

関さんの森、関家のお庭の片隅にアケビ棚がある。秋に熟す果実を期待しての設置だが、ぼくが楽しみにしているのは、アケビコノハという蛾。成虫の前翅は枯葉に擬態しているが、ふだんは隠れている後翅は黄色地に黒い眼玉模様。天敵の鳥は、突然後翅を見せられるとビックリすることであろう。

一方、幼虫はイモ虫であるが、成虫同様に目玉模様がある。休んでいるときは不思議な態勢、頭部や胸部をまるめ、腹部末端を反らせる。どちらが頭かわからない。下の写真では、左側が頭部や胸部で、右下が腹部末端。アケビの茎をつかんでいる脚みたいなものは、昆虫本来の3対の脚(胸脚)ではなく、腹部にある腹脚である。



アケビコノハの幼虫と寄生蜂の卵 2019.9.27 関さんの森

ところで、上の写真をよく見ると、イモ虫(アケビコノハ幼虫)の背中に粒状の塊が付着している。アケビコノハヒメコバチという寄生蜂の卵のようだ。イモ虫が脱皮すれば、産み付けられた卵は剥がれ落ちそうなものだが、母コバチは脱皮を阻止するクスリをイモ虫に注入すること。孵化したヒメコバチの幼虫は、イモ虫の体液を吸って成長し、やがて蛹になって成虫になる。一方、イモ虫の方は、脱皮もできず、蛹にもなれずに体液を吸われ続け、やがて絶命する。恐るべし、アケビコノハヒメコバチ。

(山田純稔)

松戸のみどり再発見ツアー55 (観察学習会 73)

「歴史あるみどりをつないで初詣・七福神と富士山も」

1月19日(水) 9:30~12:30(雨天中止) 参加費:300円(会員100円)

集合:JR北小金駅改札口9:30 現地解散(慶林寺)12:30 持ち物:飲み物、帽子、マスク、手指消毒品

定員:先着20名 申し込み:1月4日から受付 歩きやすく、暖かい服装で

(申込先 090-4078-3703-藤田 18時以降)

★新型コロナ感染予防対策により中止になる場合もあります。事前にご確認ください。